

e-Learning 環境の充実

— TOEIC®テストを射程に入れた英語コミュニケーション教育における リスニング訓練の自主教材：オンライン『自習課題ノート』—

宮 崎 充 保
岡 田 耕 一

1. なぜ『自習課題』なのか

世の中揃って口にするのは、「英会話ができるようになりたい」という台詞である。しかし、これには完全な見落としがある。まず、第一に反対に尋ねたくなるのは、「どうして？」である。その次にすぐ、「喋れるようになるだけですか？」である。この2つの疑問文の答えには根底に共通したものがある。それは、英語で話すことがそれほど魅力的なのか？ それより、何か話すこと伝えたいことがあるのか？ そうしたことを人に分かってもらいたい気持ちがあるのか？ はたまた、あるとすればなぜ？ 疑問が次々に浮かんでくる。つまり、コミュニケーションをしたいのか？ それをするのであればキャッチボールをしている姿が思い浮かぶか？ である。「喋る」こと自体はボールを相手に投げれば済むことである。相手がそれを受けて投げ返したときに受けてそしてまた投げ返すことができるか？ である。もっと、疑問符を付けてみる。相手が投げたボールを受けることはできるのか？ 受けなければボールは後ろへ転がり流れて行く。コミュニケーションはキャッチボールに喩えられる。

前置きはこれぐらいにして、1) 話す内容がありそれを伝えたい気持ちがあること、つまり、コミュニケーション意欲があることである。2) 相手が返答したり、問いかけて来たりする内容が理解できることでもある。この2つが揃わなければ英会話は成り立たない。

自分だけが喋り、相手のことは恬として理解しなければ一方通行である。話したくても、話題にするものがなければ相手は乗ってくれずに一方通行である。一方通行はコミュニケーションではない。したがって会話でもない。

では、英語で会話をしたければ、まず、英語を話せることも大切だが、相手の言うことを理解できることがもっと大切である。この聞き取りの力が必要なことが「英会話ができるようになりたい」という言葉には欠落していることが多々ある。コミュニケーション意欲はここでは考えず、相手を英語で理解する力だけを考えるだけでよい。そのとき、聞き取る能力がもっとも大切な基礎体力である。

“I went to see the movie.” — “**Oh, you went to the movie.**” — “It was very interesting.” — “**Interesting ?**” — “Yeah, it was. I saw ‘Diehard 4’.” — “**‘Diehard 4’ ? I saw it too. It was very interesting.**”

太字の部分は、話を切り出した相手の言葉を繰り返しているだけだが、これでコミュニケーションは十分成り立っている。お互いに映画の趣味とどんな映画が好きかで一致している点で情報のキャッチボールが成り立っているのである。オーム返しですら相手の言うことが聞き取れれば大丈夫だと言える。相手に喋らせておけば、相手の言葉を次々に借りたとしても相手をこの手の話題であれば傷つ

けることはない。「聞き取る」能力が、いかに重要かがわかる。

TOEIC[®] Testでは、この「聞き取り」の能力を測るリスニングテストから始まり、息もつかずにそれが100問(問題数の半分)一気に45分前後で終わる。“一気に”と言ったが、聞き取りの力がなければ、この45分は地獄の長さになる。途中でテスト自体をあきらめたくもなる。あきらめ切れない受験者はさっさとリーディングテストに逃げるかも知れない。しかし、インプットがない腰弱の基礎体力では、リーディングテストにもうまく入れないだろう。高い受験料のことなど気にしない勇氣ある人間はここで昼寝の時間になる。

TOEIC[®] Testでは、最初の45分で真剣勝負をしなければならない。経つのが早かった45分でも遅かった45分でもこの儀式を通過したら、次の75分のリーディングテストに立ち向かう元気がまた蘇ってくる必要がある。

TOEIC[®] Testで、45分を生き延びることは初心者にとっては最大の力である。自然なスピード(1分間に150-200語)に曲がりなりにも、嘘でもいいから、付き合えるからである。であれば、本学のクオーターの7回授業で終わる「TOEIC準備」は聞き取る訓練をするのがいちばん効果的であろう。週1回の授業だけではとてもそうした訓練などできない。毎日の積み重ねの“素振り”をして、分からなくてもまず退屈な素振りを繰り返す。そして、知らないうちに勉強を毎日積み重ねて習慣化を狙う。

これが、聞き取り訓練と自学自習の習慣化を狙った『自習課題ノート』の基本的な発想であり、その教材を制作しながら、同時に、聞き取り訓練と自学自習の習慣化が目的となっていく。そして、さらに、それが期待される学習効果と考えるようになった。

このことについては、「TOEIC準備」のパイロット授業報告書として、『コミュニケー

ションツールとしての TOEIC の授業導入パイロット授業「TOEIC300準備・指導」(Center Information 2001 autumn(センターだより)、山口大学共通教育センター、2001年)に詳述している。

2. 『自習課題』の企画と内容

2.1. 理念—企画と内容

前節でも述べたように、『自習課題』の発想・目的・期待される効果は、“聞き取り訓練と自学自習の習慣化”である。後年、経験によってわかったが、毎日こつこつ積み上げる訓練と習慣は TOEIC テストに確実に反映される。が、一方では最近になってこの自習課題に批判が出るようになった。理由は以下の通りである。

1. TOEIC テストにはライティングがないのに課題の作業はライティングなので、無駄なことをしている。
2. 課題の内容がむずかしくすぎて、これも学習効果を上げるには不適切である。

果たしてそうであろうか? 上の2つの理由に対してはいくらも反駁できる。それぞれに対する反駁を上げる。ただし、本学が定める「卒業要件」の TOEIC スコアが300, 350, 400, 500, 600である(学部や学科によって異なるが、共通教育では400を基本設計としながら350が基本)以上、これらのスコアを学生に達成してもらうために、スコア重視へ傾くことも致し方ないと言える。とは言え、スコア主義は本学の英語教育が掲げる「コミュニケーション重視」の理念からは乖離する。コミュニケーションは実践であり、実践力はコミュニケーション現場で測られるものであり、TOEIC スコアで測られるべきものではない。

1. コミュニケーションスキルの[聞く・読む](インプット部門)・[話す・書

く] (アウトプット部門) の 4 要素は独立したのではなく相互に影響し合うものである。聞き取れるならば書き取れるのは当たり前である。自習課題として聞き取った作業のエヴィデンスは書かれたもので評価するしかない。

2. “学習効果” は “TOEIC スコア上昇” に置き換えられる。しかし、TOEIC スコアの提示するものは、コミュニケーション実践の場における “Can-Do” という可能性の世界の提示でしかない。スコアが実践力にお墨付きを与えるのではない。内容がむずかしいのは当然である。TOEIC テスト自体がそうであって、そ

のレベルでの訓練を初手から企図している。泳げない者も一度は水に入って少なくとも一度は水を呑む羽目を経験しなければ泳げるようにはならない。水の中では生命の危険にさらされる可能性があるが、言語訓練では生命の危険はない。ストレスを解消するのが勉強であり、ストレスを解消しないまましているとトラウマになる。

こうしたことを前提に自習課題の企画と内容を説明する。この企画は教科書と抱き合わせのものであり、2001年9月に自家版を制作するために商業出版社に持ち込んだ企画書から転載する。(商業出版社とは協議の結果こ

4.1 教科書に記載する自習課題

自習課題は「TOEIC 準備」ではリスニングに重点を置いたがよい

- 1) TOEIC は初めの45分間リスニングなので、45分の緊張・集中を持続させること(＝地獄の長さ)が第一であり、そのために「1日1時間の集中、それを週5-6日」の訓練が必要である。また、少しでも、「アメリカ英語」の native 音に慣れれば、問題に真正面から取り組める
- 2) 大半の学生がリスニングの訓練を受けていないに等しい
- 3) カタカナ英語に慣れている学生がほとんどである
- 4) 1分150語という速度に慣れていない。地獄の速さに聞こえる
- 5) まず、リスニングが出来れば Listening Section でいくらかでも点が取れたという意識になって Reading Section に取り組める。反対に、45分の前半のセッションについて行けない学生は、リスニングの途中からあるいは後半75分のセッション (Reading) でテスト放棄・睡魔に襲われるという事態に見舞われることがある

4.2 リスニングに関する課題の内容

- ・ Basic Sentences と Passages を両方取り扱う
- ・ 1日に、Basic Sentences 10文(＝7語程度の長さ)と Passage 1つ(100語程度、聴く時間が1分を上回らない) 5週間行うことが出来るとして

$$\frac{\text{Basic Sentences } 10\text{文} \times 6\text{日} \times 5\text{週間}}{=300\text{文}}$$

$$\frac{\text{Passages } 1\text{つ} \times 6\text{日} \times 5\text{週間}}{=30\text{文章}}$$
- ・ 教科書の中で学習範囲を指定する。また、Basic Sentences, Passages にある文法事項を指定範囲した課に Nuggets of Grammar (仮題)として1ページくらい割いて載せる。(あるいは[※])
- ・ Basic Sentences, Passages に関する課題は、

$$\frac{\text{Basic Sentences } 10\text{文を聴いて真似する。また分かるまで聴いて書き取る書き取れない言葉}}{\text{は、カタカナないしはそれに近い綴りで表記してよい}}$$

$$\frac{\text{Passages } 1\text{つ、は聴いて、何の話題か、そしてその話題に関してどんなことが言われているかを訳ではなく、大まかに箇条書きで情報収集する}}{\text{この2項についてレポートを翌週の授業の始めに提出してもらう。それは、同時に出席をとることにもなる}}$$
- ・ これらの Transcription と和訳は翌週配布して、それが、教科書にうまく綴じ込められるように工夫する(付録にファイルを付ける)。Transcription には簡単な語彙やイデオムの解説を書き加える。(※あるいは、) Nuggets of Grammar はここに載せてもよい。
- ・ Native speakers of English による Basic Sentences と Passages の朗読の CD を教科書に付ける。(学生によってはどんどん先に進んでもよい)

の企画は実施されることになった。)これが事の始まりである。

2.2. コンテンツ制作

コンテンツには材料が必要であるが、上記の出版社との協議で出版社から材料は提供してもらったことになった。

Basic Sentences を制作するために、中学校の教科書と高校のオーラルコミュニケーションの教科書を揃えられただけ揃えてもらう。

Passages (現在は conversations / short talks と呼んでいる)には、出版社からの出版物の中から TOEIC テスト風の100語から200語程度のひとまとまりの会話文と文章を提供してもらう。

Basic Sentences (以後 BS) 300文を選ぶために上記の教科書に印をつけながらすべてに目を通し、その中から難癖をつけながら800文を選んだ。面白かったのは多くの教科書に似通った言い回しが多いことである。800文をカードに1文ずつ転写してさらにふるいにかけた。コンテキスト抜きで十分に通じるものを主眼に置いた。結果、文例は functional なものと notional なものとの比がほとんど 1 : 2 になった。これは神がかりというべきものか、無意識の意識の操作でそうなったのか、材料分類というのは不思議な誘導的性質を持つ。

Functional な100前後の BS は、さらに分類をして行くと、“人との出会い”から始まり、“要請や提案”、“買い物”など人間関係や日常生活の表現が並び、最後には“病気と病気からの回復”という人間の一日や人生のサイクルが見えるような並びを示唆した。その示唆に従って配列を決めた。

Notional な200前後の BS は、同じく分類してみると、伝統的な文法の配列になった。大きな偏りはここでも見られなかった。

Notional な配列をもとに薄い「TOEIC 文法」冊子も出来た (*Grammar in a Nutshell*).

Passages (以後 C/ST) は出版社から送って来た20冊前後の中から現代的な話題を中心に30個選択した。2002-3年度版の教科書には C/ST は話題や長さにこだわらずに無作為に配列している。2004-6年度版では内容を考えながら、身の回りの日常生活からだんだんと社会性のある話題へ展開するような配列に変えた。

新旧 TOEIC 対応の教科書の版が変わるごとに、BS, C/ST とともに材料の差し替え、一部の配列換えを行い、そのたびに出版社の提案に基づき全体の録音のやり直しを行っている。

2.3. ハンドアウトの制作

本学の学生が課題提出をしたら、担当者はそのチェックをすぐにして翌日あるいは翌々日までに返却することになっている。担当者の作業はこの提出をもとに出席チェック(課題は授業中に回収する)と作業内容チェックをして「TOEIC 準備」授業における評価の基礎を作る。

「TOEIC 準備」の授業は月曜・火曜に行われるので、火曜日の午後にハンドアウトが配付される。

ハンドアウトは BS そのものとその大意、そして課題の BS に関しての Situational Tips (functional な BS を中心とした“英語こぼれ話”), C/ST については原文とその大意、理解のための解説を記載して、Weeks 1-5 まで1日B5版、見開き両ページに納めたテーブル式のレイアウトにした。

3. 『自習課題』の変遷

3.1. レポート形式

2002年度、本学の「TOEIC 元年」には自習課題はレポート用紙に書いて提出すること

にした。しかし、実際それを実践してみると、学生により様々な様式の違いがあり、レポートを綴じないで提出する学生もいて、すべてにおいて一定しないために担当者は翌日返却の時間制限に追われて、出席をチェックすることだけで精一杯であった。

学生は、自己の学習成果を保存してそこから自分の作業を振り返ることがやりやすくなったと思われる。

初年度でもあり、相当な労力を費やして作業した課題も担当者と学習者の両方の処理の仕方に粗雑さが見られ、課題の学習効果もお互いによく見えないという状況が生まれたのである。この問題を解消するための解決案が兆したのは、“統一ノート”を作ればよいということであった。そのアイデアが浮かぶと他にもさまざまなアイデアがそれに伴い生まれてきた。そして、レポートより遥かに効果的であると思われた。

その年の夏、教科書制作担当者はレポートをノート化する案を作成した。ただし、これを出版社に教科書の付録としてただで提供させるわけにはいかず、次年度の教科書全体の価格が上昇することが明白であった。ただでさえ、英語部会内からはクォーターの授業としては教科書が高すぎるという批判があった。教科書本体 + 付属 CD 3 枚 + ハンドアウトの定価が3,200円であった。この価格に合意するまでには、出版社と制作者の間に“価格闘争”があったのも確かである。1日BCとC/STが見開き2ページになる案を以って、出版社と交渉に交渉を重ねた挙句、出版社は一種の先行投資と見たのか、およそ70ページの“特製ノート”の価格を300円にして、教科書とのセット販売価格3,500円とした。出版社内部では採算を度外視した破格の価格設定だということであったが、それは将来への投資としての経営者の決断だと言えよう。その投資によって本学用自家版の教科書を将来は汎用版へと成長させようという戦略が働い

ていたと言えよう。

3.2. ノート形式

自習課題のノート形式を取ることによって以下に挙げる利点が生まれた。

様式が画一化され、学生には作業をノートのどこで何を行えばよいか分かり、担当者は同じ作業の出来具合をチェックすることができること。

1冊のノートになっているので、規格品となる。また、学生のためにもレポートのようにばらばらにならずに練習帳のようにして書き込みがページ毎にできること。

学生の質問も担当者のコメントも記入できること。

課題提出チェック、評価などを記す欄ができたこと。

毎週1ページを割いて、「授業や課題への質問、学習のためのカウンセリング」を行うページを設けたこと。

個人用のノートであるために、学生個人の e-mail アドレスなどを記載してもらい、メールでの双方通信、つまり、コミュニケーションが取れるようになったこと。

担当者の洞察力で、課題への取り組みがおざなりか・真剣か、また、毎日積み上げたものか・そうでないか、自分の作業によるものか・他人のノートの引き写しかも目を見張れば分かる。それで教育上の指導も可能になったこと。

とりわけ、ゴチック体の部分にノート形式の授業でもっとも重要視される、学生との個人的なコミュニケーションが可能になったことが大きなメリットとなった。

反面、書き込み量が増えるに従い、担当者のノート回収後の高の大きさが、ただでさえ、「TOEIC 準備」の授業は、教科書類、担当

者の裁量による自己制作のプリント、CDプレーヤーの運搬など、下手すると台車で教室を往復することになりかねない負担が生じることになった。

【2003年度版】

左側のページにはBSの聞き取りを書き込む。聞き取りの助けとなる日本語が提示されていて、BS原文の最初の1-2語がヒントに与えられている。ただし、教科書は2002年度版をそのまま用いているので、日本語はCDにも吹き込まれていた。

右側のページには、C/STの聞き取りで聞き取りを箇条書きにする空欄がある。ただし、聞き取りに慣れない学習者のために「聞き取りのポイント」を10項目足らず提示し、それに基づいてノートを取れるように工夫している。

【2004-6年度版】

ノート化へのアイデアはさらに展開し、基本的には同じだが、左側ページには教科書に出てくる単語や熟語の含まれる文のうち6-8文を(教科書巻末の学習のために日割りしたVOCABULARYから)採用し、学習すべき単語や熟語を入れるcloze testの様式を加えた。

左側ページには、先行ノートと同じように、「聞き取りのポイント」を挙げ、かつ、聞き取り文の一部を、他は中略にして、提示しながら要所に言葉を入れるcloze testの形式を採りながら、原文へ視覚的にも近づきやすいようにした。以上の「聞き取りのポイント」と「cloze test」の作業を基にして、C/STの内容把握が楽になり箇条書きで要点が書きやすいように工夫した。

反面、ライティングテストはTOEICテストには含まれないので訓練する必要がないという批判をさらに煽るようなノートに変化した。しかし、書き留めることは耳ではおぼつかない内容を視覚化し、記憶や理解へ向かわせて耳が捉えたものを定着させる作業である。

また、手や指を使う作業を通して記憶や理解すべきものを身体の一部化することでもあり、決して効率の悪い、効果のない、時間を無駄遣いする作業だとは思われない。もちろん、耳と口と舌の動きで身体その部位に身体化することもできる。むしろ、その方が確実な定着が期待できるが、そのことを評価基準にするには基準の取り方がむずかしくなる。自習課題ノートの中に作業量が増えたのが、一部では学習の面倒なことが理由となり、3.2.1で言及した批判の種を作ったとも言えよう。

3.3. オンライン形式

2004年の特色GPの助成金採択は、本学の英語教育がさらに「コミュニケーション重視」へ向かう方法論とその準備、実践の大きな手助けとなった。

レポート形式やノート形式でもう一つ問題があり、その解決がなされないものがあつた。

自習している内容の成否、つまり、正解か不正解かが即時的に提示されないで、月曜・火曜の作業など長くは1週間待たなければならない。現場密着の問題解決が望まれること。

であつた。このことに対して不服を申し立てる学生もいたが、これまでの形式ではそれは不可能なことであつた。

その解決法がオンライン形式である。いわゆるウェブを用いたe-learningへの『自習課題』の転換である。それを行えば上の積年の問題は一挙に解決する。もっとも、オンライン形式が万能ではないことを認めた上で、「レポート形式」「ノート形式」「オンライン形式」の中から、コミュニケーション“学習”という真の意味での学習の効率・効果のいちばん高いものを選ぶとすれば、今のところは「オンライン形式」を採用すべきことは明らかである。

3.3.1. オンライン形式だけが持つメリット（転換のための必然性）

オンライン形式を採るなら、上の問題解決だけではなく、“オンライン”でなくてはならない必然性を持たなければならない。その必然性が欠如する限りにおいて無駄な投資となるからである。必然性は客観的にそれと認められるものが1つあれば投資の価値はある。もし、それ以上あれば付加価値として考えればよい。そうしたものがなければ、『自習課題』は取り止めて、これまで購入してきた市販の e-learning 教材を利用すればその方が遙かに上手に作られている。

この必然性を考え出すために2005年企画書を作成し、本学の共通教育英語分科会に提出してオンライン形式への移行を議論してもらった（【資料1】ここに考える学生側へのオンライン作業のメリットと必然性を述べている。ただし、コンピュータリテラシーに乏しいコンテンツ制作者には「仕様書」が書けなかったため、画面のイメージ図とそれに伴う操作の説明で済ませている）。業者すらオンライン教材は100%の安定度が保証できないとする中、安定性のリスクありとして、2006年度は「TOEIC 準備」授業の20%で試行することに決まった。20%に根拠はないが、20%は20%である。

3.3.2. コンテンツの全面改訂

ノートからウェブへのメディアの転換は、ノートにまつわるすべてのコンテンツの構造と一部の内容を書き換える必要性を生み出した。ノート時代には紙面1ページに表示すれば済んだコンテンツが、オンラインでは、1項目1画面の表示、さらにその項目に必要な情報を1項目1画面表示という階層化された多重構造を取る。そのために、紙メディアでは項目ごとの関係性が一目で見えていたものの流れをすべて断ち切り、流れは画面の表示順によって学習者が把握するようにして、1

項目ずつを独立した情報として書き直さなければならなかった。

2005年には、第3冊目の教科書原稿が、TOEIC テストリニューアル発表のために死産させたばかりの時期であったが、週末ライターとして2ヵ月の週末の時間を集中的に用いて、ノート形式の『自習課題』（「自習課題ノート」+5冊の「ウィークリーハンドアウト」+「TOEIC Test Grammar in a Nutshell」）の解体と書き直しを行った。C/STの日本語の「聞き取りのポイント」を1画面1設問の形式に変え、それに4つの英文選択肢を付けウェブ上ではその中から正解を選択することができるようにマルチプル CHOICE に書き換え、ノート形式の学習者の（日本語）表現力で箇条書きにする課題形式を解除した。3択式作問は比較的に苦勞の要らない作問だが、4択式作問になると劇的にむずかしくなり、最後の選択肢を作るときに苦勞を要する。最後の選択肢は先行する3つの選択肢に内容が被ったり、他の3つとは表現形式がまったく異なったりして、4択のむずかしさを初めて経験した。

一方では、当時SEの岡田耕一氏が【資料1】に基づいてコンテンツ搭載用のプログラムを書いた。試作版は2006年1月に公開され、英語分科会によってテストランが行われた。詳しいことは後続の岡田報告書に委ねるが、いくつかの問題点（technical glitches）があり、結果的には1年間待って、2007年度から一斉使用に決定した。採用を1年遅らせたのは、新TOEIC対応の教科書制作に連動させながら、

1. コンテンツの内容を2006年までのものをさらに部分的に変更すること。
2. 新TOEICは5つの英語圏のアクセントを使用するために、コンテンツのナレーションを全面的に1の変更に従いながら差し替えなければならないこと。

3. 5つの英語のアクセントのうち、アメリカアクセント版、カナダアクセント版、イギリスアクセント版、オーストラリアアクセント版に加えて、この4つのミックスアクセント版を搭載し、学習者にアクセントのヴァリエティを提供することにして、その準備をしなければならないこと。

が、1年の時間猶予をテクニカルグリッチのソリューションとともに必要としたことである。

4. オンライン形式の功罪

オンライン形式は学習の履歴管理ができることが、指導者にとっては大きなメリットである。履歴を取ってそこからどのような評価指標を求めるかという問題も解決にはむずかかった。

『自習課題』制作者は、【資料2】に示す履歴管理の案をたたき台として英語分科会に提出して案を叩いてもらった。その結果、

BS および C/ST が毎日、毎週、延べ5週間どこまで達成されているか。

これだけを評価基準とすることになった。もちろんのことながら、基準は定量化されたものである。制作者は自習課題に費やす時間のことを重視した。企画書(【資料1】)には「耳にたこができるまで、聞いて、聞いて自然な発話に慣れ、それを理解へ結びつける」という趣旨をオンライン形式の最大の必然性として挙げていた。

このことは、履歴管理に非常に役立った。1クラスの一覧表(学生へのe-mail連絡ができる)と1人の学生の履歴を見て、

1. 適宜、指導者は必要に応じてe-mailで個人的に学生の指導を行うことができた。
2. クラス全員に対しての連絡や、電子媒体による教材の配付ができた。

3. 学生個人の自学学習時間の長さを見ることができた。

特筆すべきことは、3のメリットである。週1.5時間の授業に対してクォーター1単位の授業なので、学生へ要求される自習の時間は週3時間が必要である。反対に言えば、それだけの長さの自習をするだけの1コマの授業を設定しなければ、単位制に違反することになる。しかし、これまではそのことは謳われていても実際に測られ、1コマの保証をして授業に対するアカウントビリティを持つには直感だけのことであり、かろうじて学生評価に基づくしかなかった。学生評価に出てくる時間の長さも確実とはおおよそ言いがたい。しかし、オンライン形式を採用することによって、その挙証ができるようになったのである(後述7.2.参照)。

また、1.での学生とのコミュニケーションも頻繁になされるようになり、授業情報の周知徹底が可能になり、同時に個人的な学習相談、学習指導も行われた。

デメリットもある。これまではノート形式でじかに学生の学習プロセスを観察できたが、ウェブ上ではあくまでも出来高による履歴管理であったため、プロセスはかろうじて学生との授業やe-mailでのコミュニケーションによってわかる場合があるだけである。教育には教員の持つ直感を見逃すわけには行かない。履歴管理による評価体系は教員の直観力をかなり排除したところがある。

ウェブ文化を利用した「オンラインノート」は発足したばかりで、これでのわかに可否を断ずるわけには行かない。試行錯誤を積み重ねるしかない。そのためには、時間をかけるしかない。と同時に、絶えず改良を目指す姿勢を崩してはならない。

謝辞：当時、大学教育機構のSEであった現、助教岡田先生には、コンテンツ搭載のためのプログラム製作では全面的にお世話になった。

このプログラムは大変優れていて、2007年度の「TOEIC 準備」の授業の7週間、大きな支障はまったくなくて、全学2000人以上の受講学生がウェブ文化の恩恵を受けた。また、プログラム製作過程でも、コンテンツに対して絶えずフィードバックをしていただいた。学習者の身になってプログラムのあり方があらためて岡田先生から発信された。それは、コンテンツ製作者にとっては有意義なものであった。ここで深くお礼を申し上げたい。また、このプログラムには、ぜひ、“Ko'ichi Okada 2006[©]”と共に、“Programmed by Ko'ichi Okada”を付していただきたい。

(以上、文責 宮崎充保)

5. e-Learning システムの構成

今回の e-Learning システムは、発案者である宮崎充保教授の原案(資料1)を元に独自のシステムを構築している。システムは web アプリの形式で構築した。フロントエンドとなる Web サーバーでは PHP5によりページ遷移等を制御し、問題の配布と学習結果の記録を行っている。課題の提示と解答はインタラクティブ性が必要であったため web ブラウザ (IE や Firefox 等) 上の JavaScript で行った。音声の再生はページに埋め込んだ Java Applet を JavaScript から制御させている。主な利用環境は本学推奨ノートパソコン(本年度のスペックは Celeron M1.73GHz, RAM 1GB, HDD80GB 程度)に搭載された Windows XP, Vista 上の IE6, IE7を想定しているが、少なくとも Firefox と Java Plug-in が利用できる環境であれば、例えば Linux 等でも動作は可能である。

サーバー側の構成はフロントエンドの web サーバー (Pentium4 2.4GHz, RAM 1GB, HDD 500GB (RAID0 + 1), FreeBSD 4.11-RELEASE, Apache 1.3.29) と、バックエンド DB サーバー (SPARC V9 900MHz × 2, RAM 4GB,

HDD 60GB (RAID5), SunOS 5.8, PostgreSQL 8.2.2) の 2 台に担当させた。このサーバーは本教材の専用サーバーではなく、本学メディア基盤センター提供の乗り合いサーバーである。

なお開発環境はノートパソコン (Pentium M 1.4GHz, RAM 512KB, HDD 80GB, Windows XP SP2) 上に web, DB サーバーを構築することで、クライアントおよびサーバーが 1 台で完結した状態で行った。

6. 自習課題の概要

自習課題は、リスニング対策に主眼を置き、なるべく英語を繰り返し聞くことで英語に耳を慣れさせる事を狙ったものであり、宮崎充保教授の原案を基に構築している。ここでは概要紹介に留めるので、詳細は原案(資料1)、及び実際の教材のマニュアル(資料3)を参照して頂きたい。

課題は前年度までの書籍版自習課題ノートを基にしており、短文10問と長文1問を1日分として週6日、5週分の計30日分を用意した。各問題には書籍版から細かい修正や解説の追加等を行っている。音声に関しては TOEIC で新たになまりが導入された事に対応するため、まったく新規に録音を行い、各問題について混合、米、英、豪の4種類を用意し学習者が随時選択できるようにした。

“Basic Sentence”(以下 BS)は短文の書き取り問題であり、英文の音声を再生し、聞き取った英文をその場でキーボードから入力する。入力が間違っていると誤りであることをリアルタイムで提示し、聞き取れない場合や間違っって書き取った場合は3~4回英文を再生する事で自動的に正解を提示する。

“Conversations / Short Talks”(以下 CST)は長文の聞き取り問題であり、Points of Listening, Cloze Test, Vocabulary 確認, 和訳確認の4段階の課題で構成される。まず英文

を再生し、ポイントとなる内容を四択の英文で問う Points of Listening の課題 5～10 程度順番に行う。ここで誤った解答をした場合、一旦英文の再生をし直すまでは解答の入力を拒否する。Points of Listening が全問終了すると次に英文全体を提示し、ポイントとなるセンテンス数箇所を穴埋めする Cloze Test の課題を行う。ここでも、各穴埋め箇所ですべて 3 回英文を再生しても正解にたどり着けない場合、正解を自動的に提示する。更に完成した英文に対してポイントとなるボキャブラリーを提示し解説を確認させ、最後に日本語訳の提示を行い確認させる。

学習結果は各問題の解答後サーバーに送り、学習履歴として記録する。教員はこの記録を各問題における英文の再生回数と所要時間の一覧として閲覧可能となっている他、学生からの質問をメールで受け取る機能も用意した。

7. 実施の状況

作成した e-Learning 教材は 2007 年度入学の第 1 学年の学生、約 2 千人を対象とした第一クォーターの必修科目「TOEIC 準備」において自習課題として利用された。以下では実施結果について詳細を示す。

7.1. 解答課題数と人数の分布

解答課題数と積算人数の推移の関係を図 1 に示す。合計 2,012 名分の利用アカウントがあり、解答問題数 330 問を境に人数を集計してみると、330 問未満が 369 名、330 問丁度が 1,140 名、330 問以上が 503 名であった。ただしこれには英語部会の教員 28 名と、本学アカウント保持者（1 年次以外の学生および英語部会以外の教員）若干名を含む。今回用意した課題数は 330 問であるためほぼ半数以上の利用者が過不足なく回答しているようである。

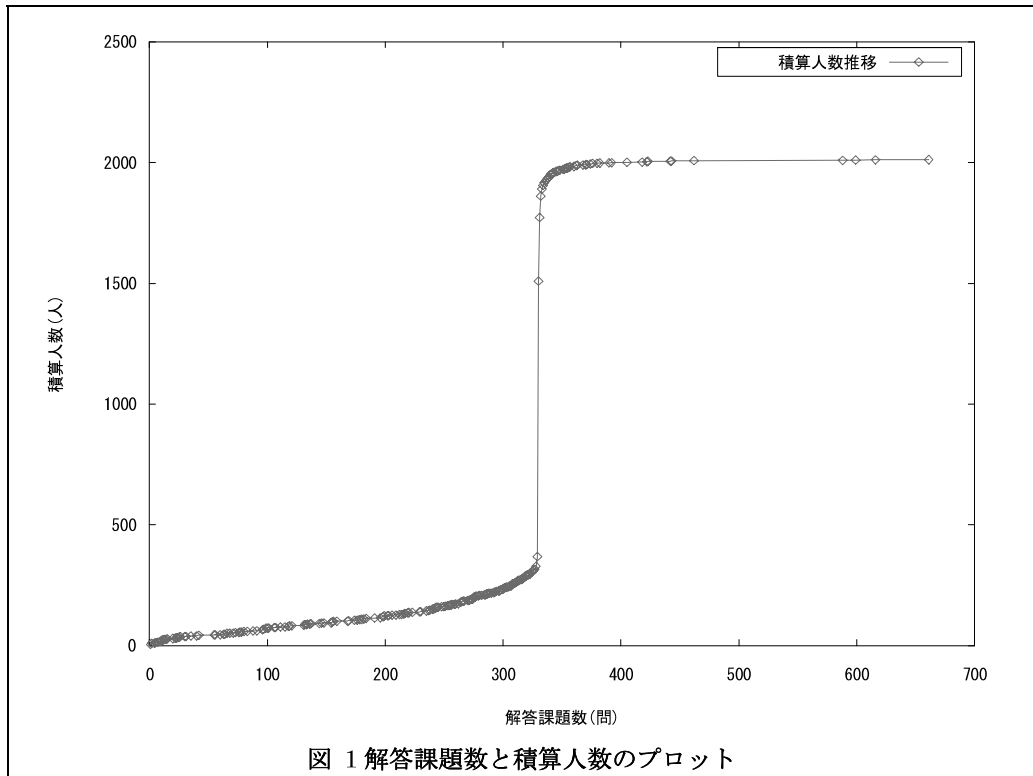


図 1 解答課題数と積算人数のプロット

トータルで約2回ずつ課題を行った利用者がいたようだがそれ以上課題を行った利用者はいなかったようである。

今回の実施では「TOEIC 準備」において、自習課題への取り組みを成績評価の90%とする取り決めがされている。このため履修放棄など一部の例外を除いては課題の学習達成率はほぼ100%に近い最終結果を得たと考えている。しかし、実際に集計を試みた結果では、約18%が330問の解答に至ってないことが分かる。必修科目であるため18%が履修放棄という状況は考えづらい。このうちどの程度が履修放棄に当たるのかは、成績データと照らし合わせてみる必要があるだろう。

7.2. 解答課題数と学習時間の分布

解答課題数と所要時間の関係を図2に示す。330問解答者のみを抽出し所要時間の統計を取った結果、平均は約13時間32分、標準偏差

は約5時間6分、最短は約5時間27分、最長は約60時間14分であった。全数について統計を取った場合は、平均は約12時間57分、標準偏差は約5時間41分、となっていた。課題は5週、30日分であったから1週当たりだと約2時間35分程度、1日当たりだと約25分程度という計算になる。所要時間の概算としてはBSに1分弱、CSTに10分弱といったところであろう。

このデータから視覚的に学習者の能力向上を読み取る事は難しいが、解答問題数 n とした時、所要時間を $t(n) = an^\gamma$ と置きパラメータ a 、 γ を gnuplot で最小二乗推定してみると $a = 0.055725 \pm 0.02526$ (45.33%)、 $\gamma = 0.948403 \pm 0.07802$ (8.227%) が得られる。 $\gamma < 1$ である事から、少なくとも演習を重ねる事で所要時間が短縮傾向にある事は確認できる。

課題の開始時刻と所要時間の分布を図3、

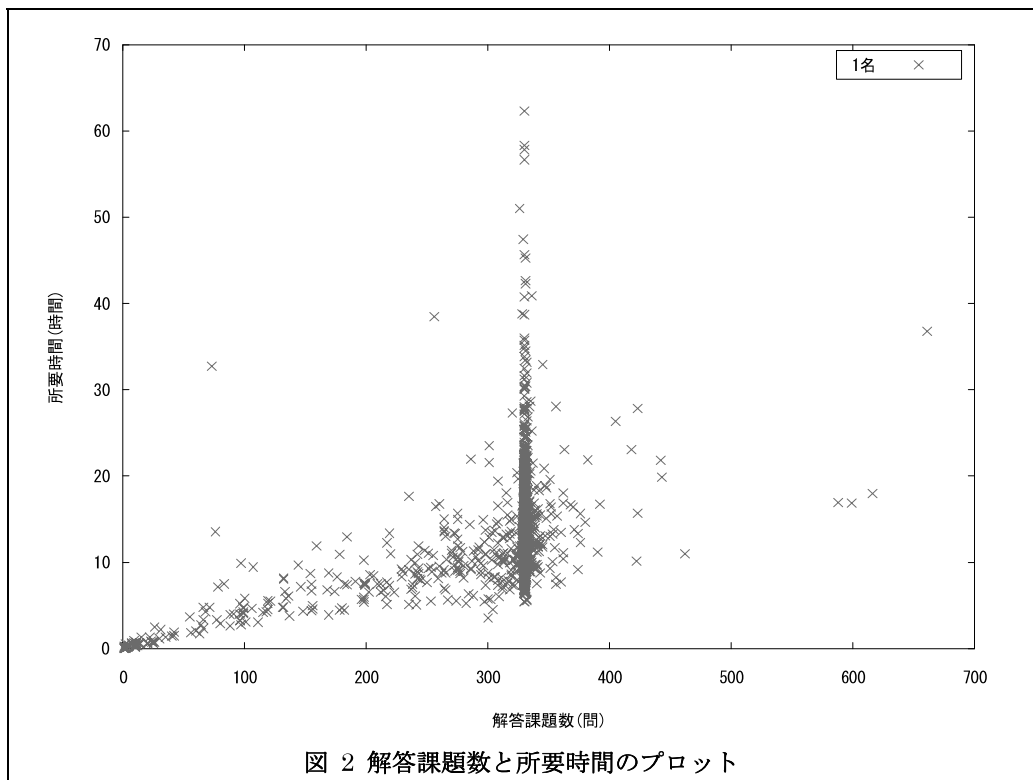


図4に示す。異常に時間がかかっている例が散見されるが、これはノート等で課題を行う際、途中でサスペンド、レジューム等を行い一旦中断した後、再開後そのまま演習を続けて行い解答を終了したのではないと思われる。逆に長文問題に1分もかからない例も散見されるが、これは意図的に答えを誤る等して、不正解時の正解提示機能により解答を放棄しているのではないと思われる。

所要時間の統計を取ってみると、BSの平

均は約90.2秒(=1分30.2秒)、標準偏差は約386秒(=6分26秒)、CSTの平均は約753秒(=12分33秒)、標準偏差は約1,800秒(=30分)であった。標準偏差が極端に大きくなっているが、これは上記の異常値を含むためである。所要時間が長いものを異常値と見なし所要時間の長いものから順にデータを切り捨てると、約0.27%(BSでは660秒以上、CSTでは4580秒以上)ではBSの平均は約83.4秒、標準偏差は約61.6秒、CSTの平均

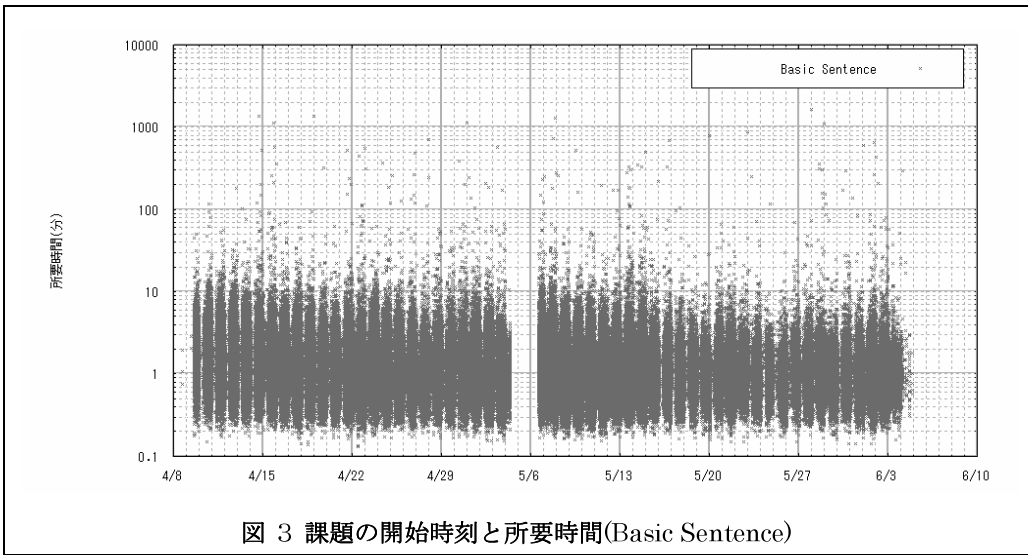


図3 課題の開始時刻と所要時間(Basic Sentence)

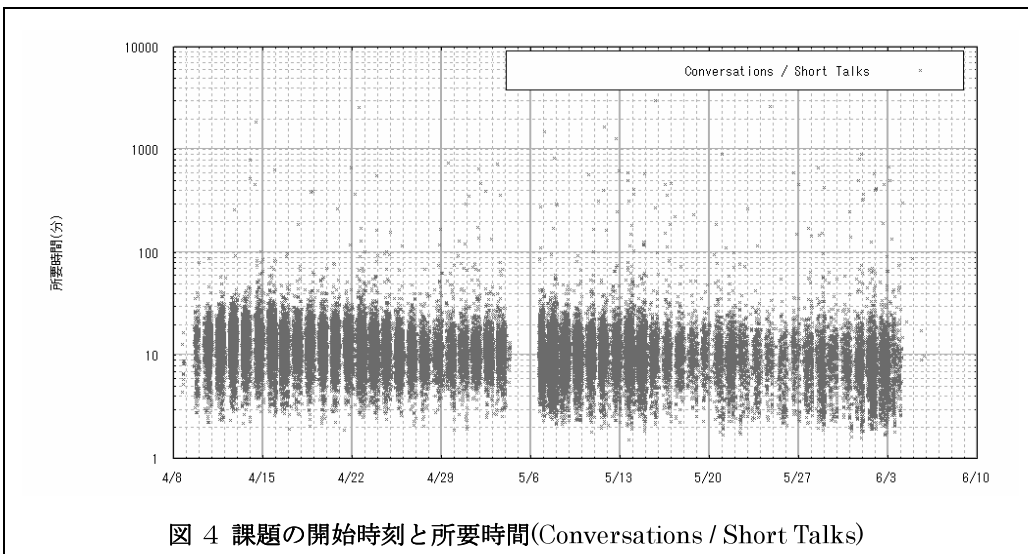


図4 課題の開始時刻と所要時間(Conversations / Short Talks)

は約698秒，標準偏差は約364秒，4.56%（BSは200秒以上，CSTは1,350秒以上）ではBSの平均は約73.8秒，標準偏差は約39.0秒，CSTの平均は約648秒，標準偏差は約258秒となった。ここで切り捨てに用いた割合は正規分布の 3σ ， 2σ における存在確率99.73%，95.44%を根拠にしている。

7.3. 課題開始回数の推移

課題開始回数の推移について1日当たり，1時間当たり，1分当たりの状況を図5，図6，図7に示す。5/4，5/5にはアクセスが無いが，これは耐震補強作業等に伴うネットワーク停止が行われたためサーバーにアクセ

スができなかったためである。

課題は週6日ずつを5週分用意してあったが，これを見ると6週以降も課題を行っていることがわかる。しかし9週以降ではほとんど課題を行っている形跡はなかった。これはTOEIC準備がクォーター制（全8週）の授業であるためと考えられる。講義終了後はほぼアクセスがなくなっている状況が読み取れる。

実施期間が短い曜日によるアクセス数の偏りがあるかどうかをこのデータからすることは判断が難しいが，直感的には曜日による偏りはあまり無かったように見える。

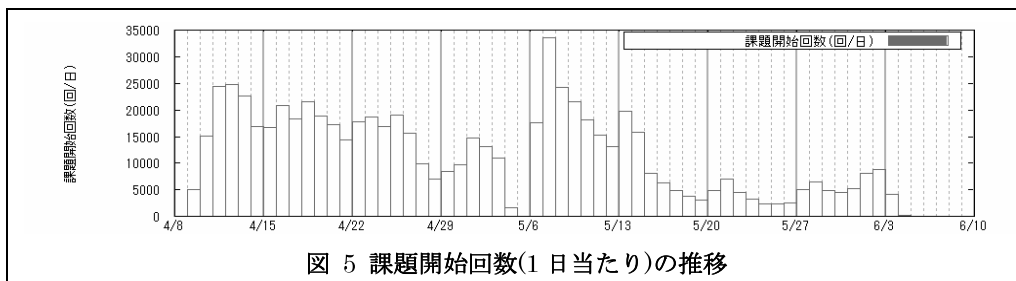


図5 課題開始回数(1日当たり)の推移

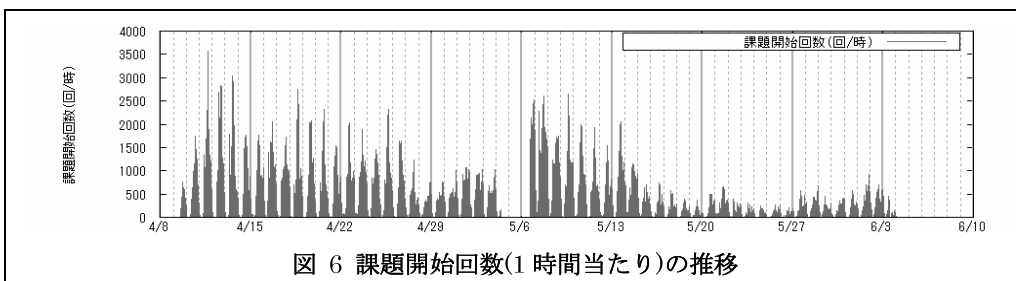


図6 課題開始回数(1時間当たり)の推移

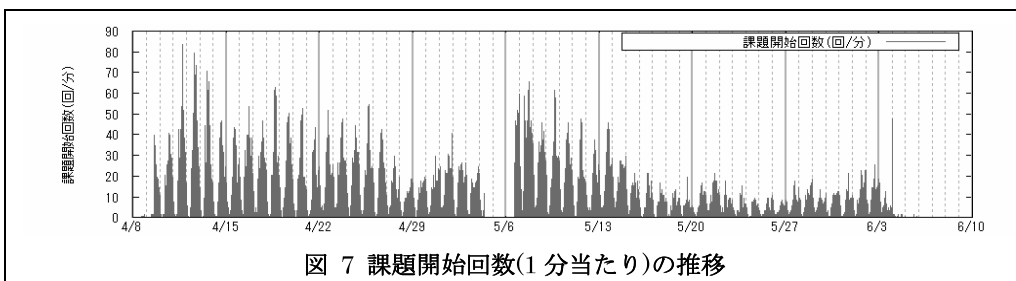


図7 課題開始回数(1分当たり)の推移

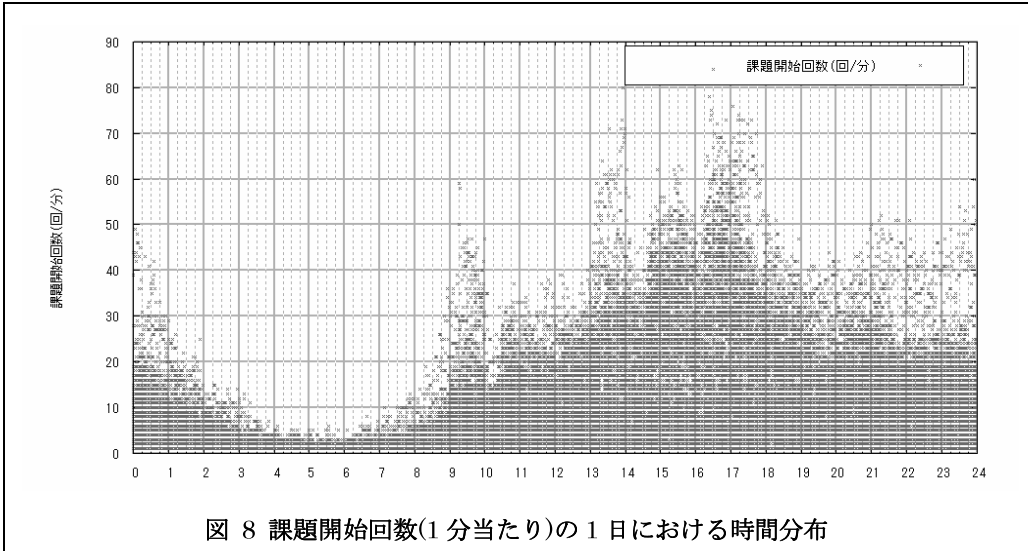


図 8 課題開始回数(1分あたり)の1日における時間分布

7.4. 一日のアクセス分布と負荷

1日における課題開始回数の時間分布を図8に示す。最もアクセスが少ないのは5時付近、最もアクセスが多いのは17時付近であり、両ピークにはほぼ12時間の間隔がある。9時、13時、15時付近にもピークがあるが、これは授業の合間の時間を利用して課題を消化していたものと考えられる。

グラフを見る限り、今回の運用では比較的広い時間帯にアクセスが分散しており、学生のアクセスが短時間に集中する傾向はそれほど顕著ではなかったと言えるだろう。しかし、本学の新生が約2千人である事を考えると、短時間にアクセスが集中するとサービスの提供に問題が生じる可能性は十分にあったと言える。今後は何らかの対策を講ずる必要があるだろう。

演習時のサーバーへの問い合わせの多くは問題データや圧縮音声の取得、及び学習結果の記録であるため、問い合わせの独立性も高く1件当たりの負荷は比較的小さいものである。実際、期間中に開発者自身がアクセスしてみた限りにおいて、少なくとも演習に限定する限りにおいては極端な速度低下は発生し

ていなかったように思われる。

ただし、教員用の学習状況確認機能は負荷の見積もりを見誤った点があった。教員は受け持ちの学生の学習状況を一覧する必要があるため、受け持つ数十名の学生の全学習履歴に対してクエリをかける必要がある。しかしこの部分に用いたクエリにスケアラビリティが不足していたため、学習の進捗が進むに連れこの問い合わせにかかる時間が顕著に増大して行った。その結果、最終段階ではクエリを終了するのに数分程度の時間を要する状況も生じた。待てば出てくるとは言え、これは使い勝手の上で問題が大きい。DBへのクエリの問題であるためwebサーバーへの付加は大きくないはずであるが、DBへのアクセスが待たされる事にも繋がるため、これは次年度には改善しなくてはならない課題である。

8. 実施におけるトラブル等

初期段階ではネットワークへの接続方法が分からない学生や、Java Plug-in をインストールが出来ず音声再生出来ない学生が問い合わせしてくる事もしばしばあった。とは言

え1年次の第一クォーターという開講時期に情報処理等の講義に先駆けてPCの本格利用を行ったにしては比較的順調に滑り出しが行えていたと言えるだろう。これは第一回目の授業において、各クラスを担当される先生方に一通り使い方のデモを行ってもらった事が功を奏していたのではないと思われる。

Java Plug-in が導入できない事例は、多くの場合ウイルスバスターのファイアウォールによりインストール用のプログラムによるネットワークアクセスをブロックされてしまったことが原因であった。一旦ブロックされてしまうとウイルスバスターの設定を変更しファイアウォールの例外ルールに手動で登録しなければなかった。問題が判明した時点で、追加マニュアルを作成し公開したが、これは初心者には面倒な作業であった。

本学でこれほど多くのネットワークからのアクセスを伴うコンピュータの利用を行うことは初めての試みであり、開始初期には、学内の情報コンセントからノートを接続する際にDHCPのキャパシティを超えてしまい接続不能になる状況も生じた。この問題はメディア基盤センターが迅速に対応してくれたため早期に解決している。

これらのトラブルの多くは、本学で「パソコン SOS」の講義の一環として行われているパソコン SOS センターにて相談を受け付け、対応を行っている。

Mac については、非常勤教員より自宅の Mac で動作しないとの報告を受けている。Java のバージョンに依存する問題であったようだが、検証するための環境が準備できなかったため具体的な症状および対策方法は確認できていない。

問題データは事前に通りチェックは行っていたものの、一部にミスを含む問題が残っており、実施期間中に指摘を受け修正を行う必要が生じた。

今回の実施ではアクセス数が集中する時間

帯では web サーバーの load average の上昇が顕著になる傾向が確認されていた。しかし講義終了後 e-Learning のアクセスが減少した後も、高負荷状態がたびたび発生しているようである。このため、負荷分散や専用サーバー化を検討しておく必要がある。

9. e-Learning 教材のあり方について

自習教材としての e-Learning 教材は本来、自分の能力向上のために自発的に利用されるべきものである。そういう意味では制作者自らが利用したいと思える教材、システムを作り上げる事が非常に重要であると考ええる。

今回の教材は必修科目の課題として位置付けられていたため、講義の開講期間中の利用率は非常に高いものであった。しかし、講義終了後の利用率は、ほぼゼロといっても良い状況である。つまり講義外の自習用教材としては利用してもらえなかったという事であり、これは素直に喜べる結果ではない。しかし、例えばテレビゲームを例に考えた場合、一度クリアしたゲームが繰り返し遊ばれる機会がどれほどあるだろうか。娯楽を含め、新たに消化すべき課題やコンテンツが増え続ける中で2度3度と利用される事は易しくはないはずである。

講義外利用率の低さについては真摯に受け止める必要があるものの、強制であったとは言え、8割以上の利用者が少なくとも一度は全問消化した点については、一定の成果があったと捉えるべきであろう。

10. まとめ

今回のオンライン教材は利用率の点から見ると当初の目的を十分に達したと言える。ノートパソコンの有効利用という観点では必携化に近い状態になりつつある現状、利用促進を図るには良い題材と言えるかもしれない。

学習効果については解答課題数が増えるに連れて所要時間が減少する傾向は認められるものの、具体的効果については検討を要する。より効果的な問題提示方法も含めて今後研究

改良を進めていく必要があるだろう。

(経済学部観光政策学科 教授)

(大学教育センター 助教)

【資料 1】

『自習課題ノート』の e-learning

英語分科会 宮崎 充保

1. 「自習課題ノート」の Basic Sentences (毎日10文ずつ)の
コンピュータ上の聴き取り書き取り

【目的】

- ・英語の発話の原音やスピードに慣れない学習者が、通常の発話を耳にたこができるほど“繰り返し”聞いて練習する。
- ・TOEIC テストの現行・新バージョン双方の Part I, Part II の練習の基礎を形成する。
- ・同様に、Part V, Part VI への対応の基礎力形成を促す。
- ・新 TOEIC テストの Parts III & IV では問題文は印刷されているが、同時に読み上げられる。短い文の聞き取りで読み上げられる問題文の聞き取りを養成する。

【効果】

- ・原音の発音、音のつながり、ノーマルスピードに慣れる。
- ・キーボード上で、綴り正しく書き取ることができる。
- ・1語進行で何度も聞き取り、正答を聞き取りながら、基本的な文法を身につける。(聞き取りも基礎文法もできる学習者は英語の reproduction 能力の確認となる。)
- ・即時的に正答まで学習できる。
- ・根気力を養成し、積み重ねの学習習慣を形成する。

【学習時の使用方法】

1. 1画面1BSとする。
2. 画面上には
 - ・常時、「課題指定日・番号」「音声ボタ

ン」、「NEXT・BACK」「タイマー」(所要時間)、「e-mail アドレス」、および必要に応じて「Situational Tip」「Grammatical Tip」が表示される。(「検索」は必要? 次の段階で考える。)

- ・聞き取る Basic Sentence の「日本語バージョン」が表示されている。
 - ・カーソルは書き込む最初の位置(ブラックボックス)にある。
 - ・必要な punctuation(“ ”, ;)は示しておく。最後のピリオド、クエスチョンマークは示さない。
3. 「音声ボタン」をクリックして BS を聞いて書き込みを始める。
 - ・カーソルが示すところから書き込む。
 - ・不正解が出たら、不正解が赤で示され、それ以上進むことはできない。
 4. 進むことができなくなったら、「音声ボタン」をクリックしてもう一度聞く。
 - ・聞いたら、不正解の場所から続けて書き込み作業を始める。
 - ・なおかつ正解がでなければ、もう一度「音声ボタン」をクリックして聞きなおす。
 5. 正解は3度までの聞きなおしを終えた時点で、正解を得られなければ、自動的に提示される。
 6. 聞き取りが済むと、Situational Tip Grammatical Tip をクリックして、関連する情報を学習する。聞き取りが済まない限

り、ここをクリックしても画像は現れない。
 7. 「TOEIC 準備」授業期間中は、指定の週までの課題を提示する。翌週以降分は提示しない。Week 5 が終わった時点で、全5週分を提示して、以後、いつでも、どの週からでも復習できるようにする。

【履歴管理】

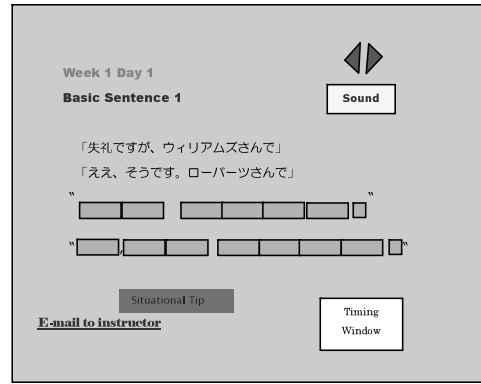
1. 目的
 - ・ 1 週間分のノルマをこなすことができたかをチェックする。
 - ・ 毎日の “ 積み重ね ” の学習ができていないかチェックする。
 - ・ 課題学習の進捗状況をチェックする。
2. チェックポイント
 - ・ 各 BS を (繰り返し) 聴いた回数 (最大回数 = 語数 (スロット数) × 4)
 - ・ 各 BS の聞き取り書き取りの所要時間 (Tip をクリックするまでの時間)
 - ・ 週の各日の完了数 (何番から初めて何番で終わったか)
 - ・ 1 回の学習所要時間 (ログイン時間とログアウト時間の差)
 - ・ ログインの日時
3. 評価
 - ・ 授業担当者は、少なくとも週 1 回、チェックポイントを閲覧して「目的」に述べたことを材料にして、学期末に英語分科会の設定する基準に従って評価する。
 - ・ 評価以前の問題として、授業担当者はチェックポイントを参照しながら、e-mail や面談によって個別に質問を受け、カウンセリングを行う。

英語の発話の原音・スピードに慣れた学習者の場合

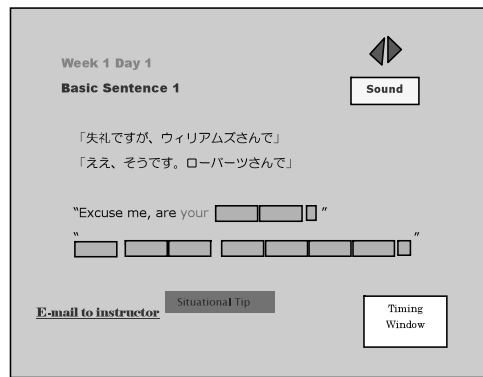
(1 回目 sound をクリックして)
 “ Excuse me, are you Ms. Williams ? ”
 “ Yes, I am. Are you Miss [] [] ”

 (2 回目 sound をクリックして)

【仕様例】



初期画面



中間画面

“ Excuse me, are you Ms. Williams ? ”
 “ Yes, I am. Are you Mir. Roberts ? ”
 (これで終わり)

まったく慣れない場合

(1 回目 sound をクリックして)
 “ E... ”
 (2 回目 sound をクリックして)
 “ Ex... ”
 (3 回目 sound をクリックして)
 “ Ex??? ”
 (4 回目 sound をクリックして自動的に以下が出る)
 “ Excuse ”
 (次に移って sound をクリックして)

“ Excuse me, a
 “ Excuse me, are your
 (2 回聴いてパス)
 “ Excuse me, are you Miz
 (2 回目, 3 回目 sound をクリックしてわ
 からない。)
 (4 回目 sound をクリックするしかない。
 すると自動的に)
 “ Excuse me, are you Ms. ... ”

(このやり方で、? までたどり着くには、
 もう数回聴くしかない)
 (がこの文では15個あるので、最高、
 $15 \times 4 \text{ 回} = 60 \text{ 回}$ 聴くことになる。ちなみに、
 この15個の空白の発話は 6 秒なので、 $6 \text{ 秒} \times$
 $60 = 360 \text{ 秒}$)
 少し慣れた学習者は、 $(60 - x)$ 回で、 x が60
 に近いほど上達している。

2. 「自習課題ノート」の Conversations / Short Talks の コンピュータ上の学習

【目的】

- ・新 TOEIC テストを原則として射程に入れて、TOEIC テストのとりわけ Part III、Part IV に対応できるためのリスニング力を養成する。(新 TOEIC テストでは、Part III での会話が長くなり、問題数が 3 問にセットされ、問題文は読み上げられる。Part IV でのショート・トークは変更ないが、問題数が 1 つのトークに対して 3 問にセットされ、問題文は読み上げられる。)
- ・長めの会話や語りを傾聴することに慣れる。どちらも、1 分150語程度の自然なスピードであるために、まずスピードに慣れる。そして、そのスピードを作り出すには、音声上のリエゾンやリダクション、アシミレーションが生起する。その生起に慣れ、意味の認識ができるようになることを養成する。
- ・文脈を把握して要求される情報を適確に選び取る力を養成する。(実は、上記 2 点はこの第 3 点目の実践の方法論にしか過ぎない。)
- ・現行・新 TOEIC テストの Part V (現行・新ともに、1 文中の適語選択)、Part VI (現行：1 文中の誤謬訂正、新：長文中の適語選択)、Part VII (現行：シングルテキスト、

新：シングル・ダブルテキスト)に画面上で対応する。(ただし、画面上ではダブルテキストは準備しない。)

【効果】

- ・長めの聞き取るテキストに慣れる。そのために、要求されている情報を探索して選択することができる。
- ・読み取るテキストに慣れる。そのために、文脈から推察して文意をなす適切な表現を身に付けることができる。

【教材構成】

1. 2 部構成とする。1) 聞き取りのポイント 2) 聞き取るテキストから読み取るテキストへの変換
2. “聞き取りのポイント”では、日本語で質問を出し、英語で 4 つの選択肢から正解を選ぶ。テキストは音声で提示する。が、必要に応じて周辺部を含めた該当箇所を文字テキストで提示する。
3. “読み取るテキストへの変換”では、cloze test の形式を取り、音声テキストを聴きながら文字テキストを完成させる。音声テキストは必要な箇所まで停止できて、初めから聞き直す。文字テキストが完成する

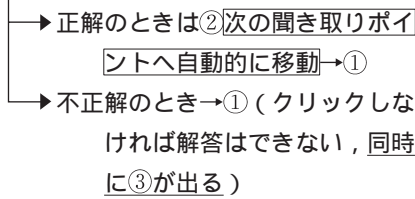
と、注を別画面で付ける。その後、大意を日本語で提示する。

【学習時の使用方法】

1) 聞き取りのポイント

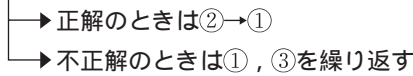
1. 全聞き取りのポイントを見た上で、各ポイントをクリックしてその解答の選択肢4つを画面に出す。

①音声テキストを聞く Answer をクリックして答え合わせをする。



③画面には該当箇所付近の発話文章がでる

Answer をクリック



2. 不正解は2回まで、音声テキストを聴き、該当箇所付近の発話文章を見ながら正解を求める。しかし、④3回目には正解が赤で出る。

3. 画面に出る解答の選択肢4つは任意の順番で提示される。

2) 読み取るテキストへの変換 (cloze test)

4. []のある文字テキスト全文を画面が出る (スクロールの必要あり)

5. 音声テキストを聴きながら四角の空所 [] を埋める。

・聞き取れなかったら任意の箇所でも音声をSTOPでき、STARTへ戻ることができる。

・また、[]が不正解であれば、赤字となり、聞き直して解答する。

・2回不正解を出すと、3回目には赤字で正解が出る。正解が出ると、四角の空所 [] は消える。

6. 読み取りテキストが完成したら、注のある箇所に下線を施した画面になる。

7. 下線の語ないしは表現をクリックして、注を読む。

8. 注を読み終えたら、クリックすると、日本語で大意が画面に現れる。

9. 大意を読んだら、終了をクリックする。

【仕様】

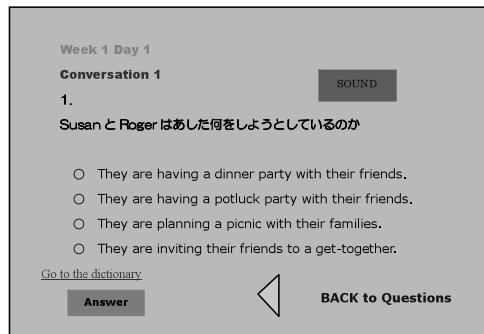
captions をつけた画面を提示する。

聞き取りのポイント



Conversation と Short Talk が交互に起こる

画面 1



解答前の画面

画面 2

Week 1 Day 1

Conversation 1 SOUND

1.

Susan と Roger はあした何をしようとしているのか

- They are having a dinner party with their friends.
- They are having a potluck party with their friends.
- They are planning a picnic with their families.
- They are inviting their friends to a get-together.

[Go to the dictionary](#)

Answer Read the Text.

不正解の画面

Read the Text をクリックする

画面 3

Week 1 Day 1

Conversation 1

1.

Susan: Do you know what John is bringing to the party tomorrow?

Roger: I think he said something about tuna fish sandwiches. He doesn't have confidence in making anything else. How about Harriet?

Susan: She's going to make a terrific tomato salad.

.....

Susan: At a potluck party, it's BYOB.

Roger: I'm sorry, but could you say that again?

Susan: BYOB . . . bring your own bottle!

解答該当箇所の吹き出し画面

画面 3-2

Week 1 Day 1

Conversation 1 SOUND

1.

Susan と Roger はあした何をしようとしているのか

- They are having a dinner party with their friends.
- They are having a potluck party with their friends.
- They are planning a picnic with their families.
- They are inviting their friends to a get-together.

[Go to the dictionary](#)

Answer BACK to Questions

正解画面 これを、8. まで繰り返す。

画面 3-3

読み取るテキストへの変換

Week 1 Day 1

Conversation 1 SOUND

Susan: Do you know what John is bringing to the party tomorrow?

Roger: I think he said something about tuna fish sandwiches. He doesn't have in making anything else. How about Harriet?

Susan: She's going to make a terrific tomato salad.

Roger: that it's going to be terrific?

Susan: Because I taught her how .

Roger: Oh. (Pause) Who is going to bring the drinks?

Susan: Are you .

Roger: No. Why?

初期画面

画面 4

Week 1 Day 1

Conversation 1 SOUND

Susan: Do you know what John is bringing to the party tomorrow?

Roger: I think he said something about tuna fish sandwiches. He doesn't have confidence in making anything else. How about Harriet?

Susan: She's going to make a terrific tomato salad.

Roger: How do you know that it's going to be terrific?

Susan: Because I taught her how to make .

Roger: Oh. (Pause) Who is going to bring the drinks?

Susan: Are you .

作業途中画面 間違いは赤字で出る。

クリックして聞き直す (3 回目正解)。

画面 5

Week 1 Day 1 Notes SOUND

Conversation 1

Susan: Do you know what John is bringing to the party tomorrow?

Roger: I think he said something about tuna fish sandwiches. He doesn't have confidence in making anything else. How about Harriet?

Susan: She's going to make a terrific tomato salad.

Roger: How do you know that it's going to be terrific?

Susan: Because I taught her how to make it.

Roger: Oh. (Pause) Who is going to bring the drinks?

Susan: Are you kidding?

Roger: No. Why?

Susan: At a potluck party, it's BYOB.

完成画面 **Notes** という注のボックスが出る。

青字をクリックして注を読む。

画面 6

Week 1 Day 1
Conversation 1

have confidence in ... ing
「……するのに自信がある」
in のあとには名詞が来る。動詞は動名詞にする。

青字の“have confidence in”をクリックしたときの吹き出し画面

画面 7

Week 1 Day 1
Conversation 1

【大意】 持ち寄りパーティ
スーザン： あしたジョン、なに持ってくるか知ってる。
ロジャー： ツナサンドとか何とか言ってたようだけど。あいつ他に料理、自信がないんだ。ところでハリエットは。
スーザン： すごいマトサラダを作るんだって。
ロジャー： すごいものだってどうやってわかるの。
スーザン： だってあたしが作り方を教えたんだもの。
ロジャー： あらら。(ややあって) 飲み物はだれが持ってきてくれる。

全て注を読み終えたら、この画面になって、終了する。

画面 8

【履歴管理】

1. 目的

- ・ 1週間分のノルマをこなすことができたかをチェックする。
- ・ 毎日の“積み重ね”の学習ができているかチェックする。
- ・ 課題学習の進捗状況をチェックする。

2. チェックポイント

- ・ アクセスの日時と時間
- ・ 1) 聞き取りのポイントに要した時間
- ・ 2) 読み取りテキストへの変換の所要時間
- ・ 全体の作業の所要時間

3. 評価

- ・ 授業担当者は、少なくとも週1回、チェックポイントを閲覧して「目的」に述べたことを材料にして、学期末に英語分科会の設定する基準に従って評価
- ・ 評価以前の問題として、授業担当者はチェックポイントを参照しながら、e-mail や面談によって個別的に質問を受け、カウンセリングを行う。

冒頭画面 以上の課題 3 部を以下の画面で表示する。

Workout for
Circuit Training for the TOEIC® Test

Week 1

Day	BS	C/ST	VB
Day 1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Day 2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Day 3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Day 4	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Day 5	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Day 6	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

BS: Basic Sentences
C/ST: Conversation or Short Talk
VB: Vocabulary Building

[E-mail to instructor](#)

課題冒頭画面 (上の画面が次に出る)

**Daily Workout for
Circuit Training for the TOEIC® Test**

Written and produced by Mitsuyasu Miyazaki

START

.....

【資料 3】

ITftTT Manual

ITftTT-Intensive Training for the TOEIC Test は英語学習用のオンライン教材です。従来、紙媒体と添付 CD で構成されていた「Circuit Training for the TOEIC Test 自習課題ノート」を電子化しています。この教材では TOEIC 受験に向けた、英文聞き取り能力の強化を目指しており、以下のような特徴があります。

- 学習課題は短文10問、長文1問を1日分として、週6日、全5週分用意されています。
- 英文の聞き取りと解答は web ブラウザ上を行います。
- 聞き取る英文は、米、英、豪のなまりと、その混合版が用意されています。(新 TOEIC 対応)
- 解答を入力すると、その場で正誤が提示されます。(従来の紙媒体では先生に提出したノートの返却を待つ必要がありました)
- 各問題には、聞き取り、解答のポイントやヒントが用意されています。
- 一定回数以上、聞き取りと解答を行ってもわからない場合は自動的に正解が提示されます。
- 従来ノートで提出していた学習の進捗は、ネットワーク経由で自動的に提出されます。

本教材の目的は、毎日英語に接する事で TOEIC 受験に向けて聞き取り能力を向上させる事です。毎日決められた課題をきちんと消化して行く事で、英語に耳を慣らす事が一番大切です。正解率は成績評価には関係はありませんから、納得がいくまで繰り返し学習を行ってください。

本教材は以下の環境を想定しています。

- 以下の web ブラウザのいずれか (Java Script と Cookie が有効になっている必

要があります)

Windows 版 Internet Explorer 6, 7

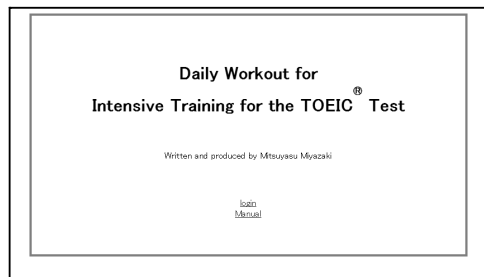
Windows 版 Firefox 1.5, 2.0

- Java Runtime Environment 1.5, 1.6

Opera は Java と Java Script の連携に問題があるため現状では動作しません。Firefox と Java が動く環境であれば、一応 Linux でも動作する事は確認しています。Mac OS X での動作は未確認です。

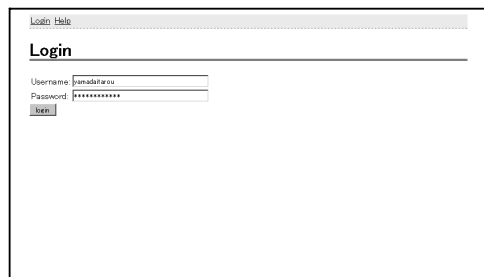
タイトル画面

タイトル画面ではログインと、マニュアルが選択できます。



ログイン

ログインには、山口大学のメールアドレスを用います。例えば、メールアドレスが「yamadaitarou@yamaguchi.ac.jp」ならユーザ名は「yamadaitarou」です。



ユーザ登録

初回ログイン時には、ユーザ登録が必要です。利用者の氏名を登録してください。メールアドレスは山口大学のメールアドレスが自動的に入力されます。

yamadatarou(Array) Logout Menu

ユーザ登録

演習を行う前にユーザ登録が必要です。本名を記入してください。

Username: yamadatarou
 email: yamadatarou@yamadachu.ac.jp
 RealName: 山内太郎

ユーザ登録完了

ユーザ登録完了すると以下の画面が表示されます。

yamadatarou(Array) Logout Menu

ユーザ登録完了

以下の内容でユーザ登録を完了しました。

Username: yamadatarou
 email: yamadatarou@yamadachu.ac.jp
 RealName: 山内太郎
 Menu: <

メニュー画面

ログインが完了すると、メニュー画面が開きます。ここでは、[Daily Exercises](#) とその進捗具合の確認、[受講登録](#)、ユーザ情報の編集等ができます。画面上部の帯は、システム共通のメニューです。共通メニューではメニュー画面への移動や、ログアウトが可能です。

yamadatarou(Array) Logout Menu Help

Daily Workout for Intensive Training for the TOEIC® Test

Menu

user

- Daily Exercise
- 演習の進捗
- 受講登録
- ユーザ情報編集
- Logout
- Manual
- この教材について
- ヘルプ/報告/要望等

受講要請

学習課題 ([Daily Exercises](#)) に進むには、まず[受講登録](#)を済ませておく必要があります。

yamadatarou(Array) Logout Menu

受講登録

学習課題を行うには受講登録が必要です。
[受講登録>](#)

授業一覧

[受講登録](#)を選択すると、[授業一覧](#)が表示されます。自分が受講すべき授業を見つけて「[登録](#)」をクリックしてください。

yamadatarou(Array) Logout Menu

Lesson

授業名	担当者	状態	受講
サンプル授業1	teacher1		登録

受講登録

受講登録には受講パスワードが必要です。受講パスワードは、授業の際、担当の教員から受け取ってください。パスワードが不要な授業は空欄のまま「[受講登録](#)」ボタンをクリックします。

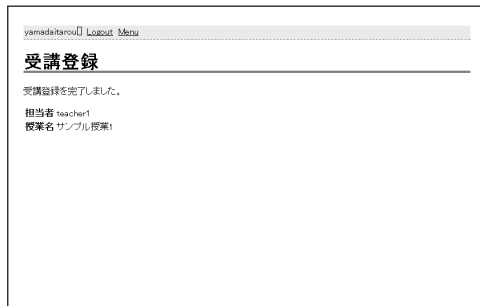
yamadatarou(Array) Logout Menu

受講登録

担当者: teacher1
 授業名: サンプル授業1
 パスワード: [sample]

受講登録完了

受講登録が成功すると以下のような画面になります。



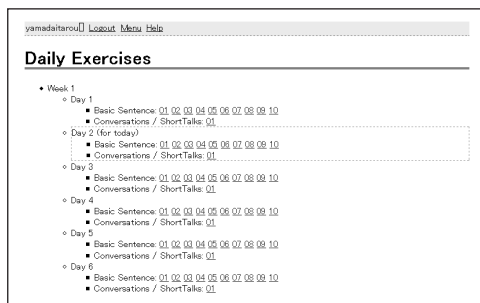
受講登録失敗

受講登録に失敗すると以下のような画面になります。



Daily Exercises

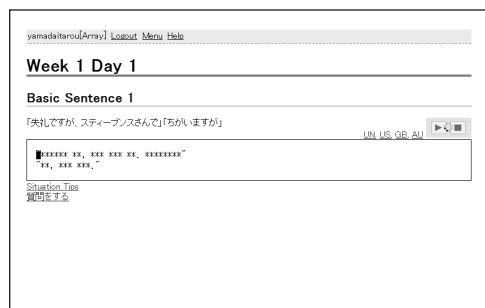
Daily Exercises では、日々の学習課題が選択できます。学習課題には、短文の書き取り問題の Basic Sentence と、長文の聞き取り問題の Conversations / ShortTalks があります。学習済みの項目にはチェックマークが付きます。



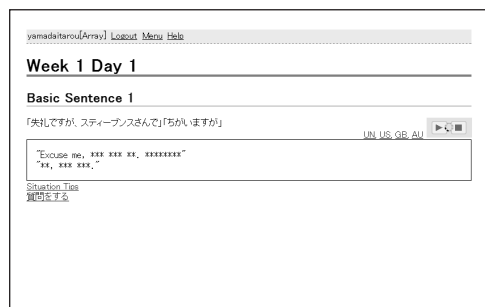
学習課題は1週6日ずつの課題が全部で5週分用意されています。最初は1週だけしか表示されませんが毎週新しい課題が追加表示されていきます。

Basic Sentence

Basic Sentence では、短文を聞き取り、全文を書き取ります。音声は自動的に再生されますが、ダウンロードに若干時間がかかる場合があります。"*" で埋められた部分が書き取りの箇所です。

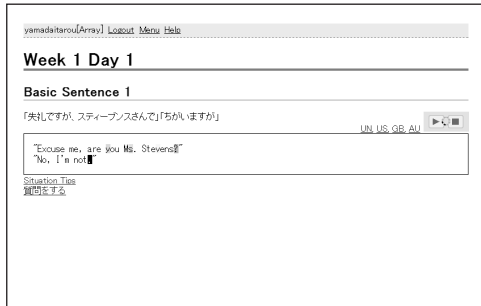


聞き取った結果をキーボードから正しく入力すると"*"の部分に文章が現れます。この時、キーボードの日本語入力はOFFにしておいてください。反応がない場合は"*"の部分でマウスをクリックする必要があるかもしれません。



文末の"!"、"?"等の記号も忘れずに入力してください。入力が間違っていると、"*"が次第に赤くなっていきます。自分の意思でもう一度聞き取りを行いたい場合は、右上の再生ボタンをクリックします。入力間違いが

あった場合も音声 が自動的に再生されます。なお、同じカーソル位置で 3 回以上英文が再生されると正解が 1 word 程提示されます。

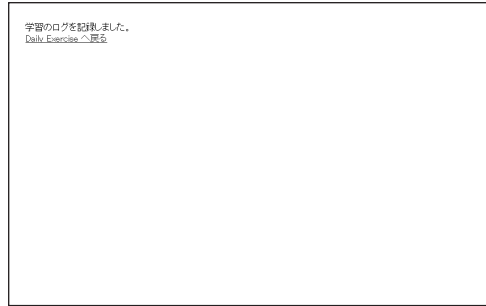


文章が完成すると Situational Tips が表示されます。文章が完成したのに Situational Tips が表示されない場合は、文末の ”'” や ”.”” 等の入力が残っているかもしれません。この場合 Enter キーを叩くと良いでしょう。なお、あらかじめ表示されている ”'” , ”'” , ”-” , ”/” , ”,” , ”.” 等の記号は適当なキーを叩くと自動的にスキップされます。



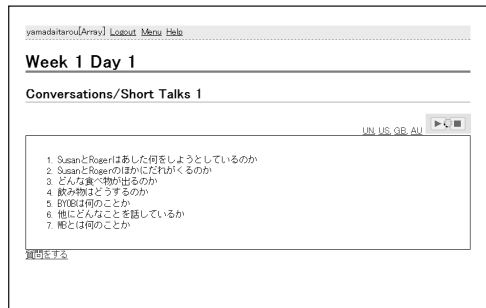
最後に、学習の結果を記録するために、”finish this work” ボタンをクリックして、学習課題を終了してください。これ以外の方法で、学習課題を抜けると、学習結果が記録されませんので注意してください。

学習結果が正常に記録されると以下のような画面が現れます。

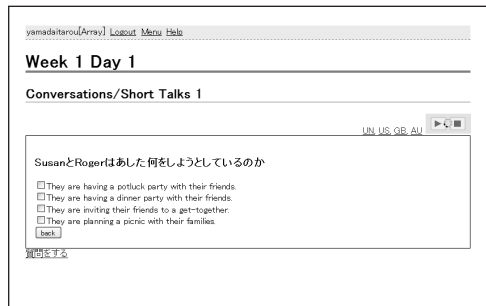


Conversations / Short Talks

Conversations / Short Talks では、長文の聞き取りを行います。この課題は Points of Listening, Cloze test, 用法の解説, 和訳の確認を順に行います。学習課題を開くと、まずはじめに Points of Listening が現れます。約 8 問程度ありますので、1 番から順に解答していきます。

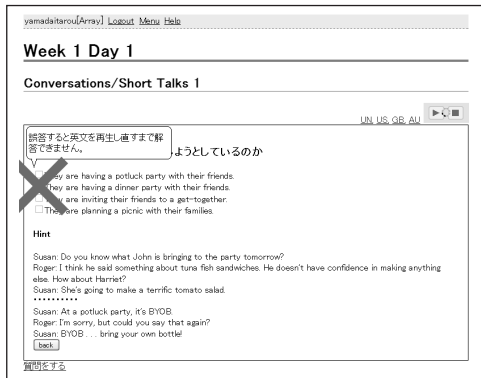


Point of Listening の解答形式は四択問題です。英文を聞き取り、正しいと思われる解答を選択してください。

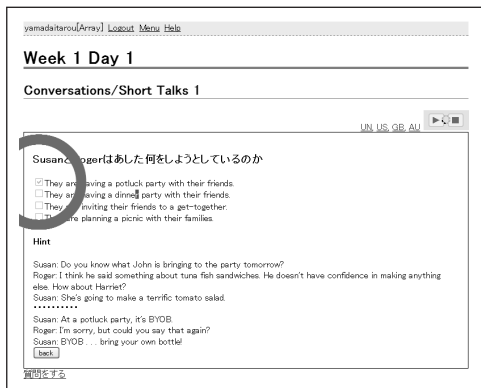


解答の正誤は、その場で × で表示されます。選択を間違った場合、Hint が表示され

ます。

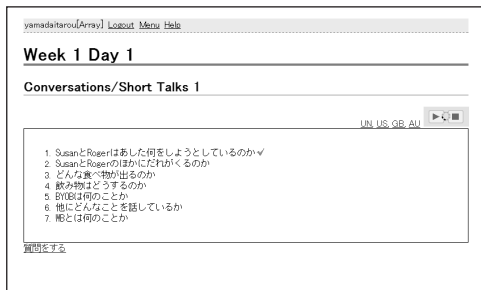


一度、解答を間違えると、英文を再生し直すまでは解答が行えません。Hintの部分に注意しながら再度英文を聞き取り、正解を目指してください。なお3回間違えると、正解が提示されます。

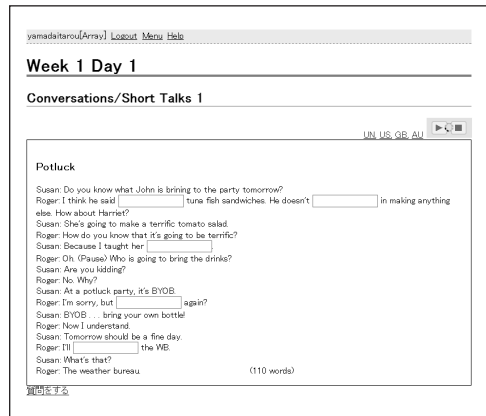


正解したら "back" ボタンで Points of Listening の選択画面に戻ってください。

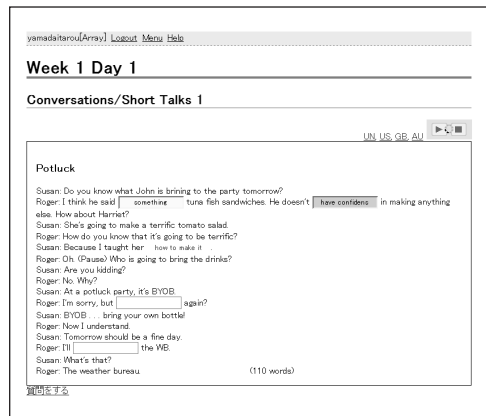
解答が済んだ項目にはチェックマークが付きます。はじめはなかなか聞き取れないかもしれませんが、がんばって全問解答してください。



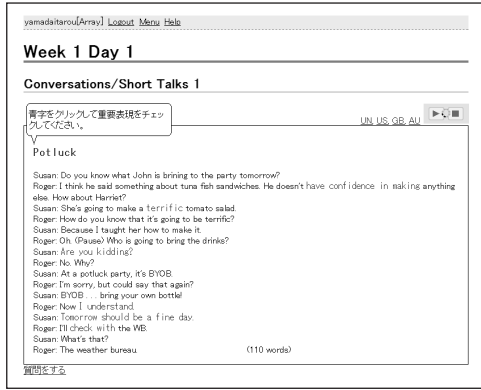
Points of Listening が終了すると、Cloze test が始まります。ここでは、英文を聞き取り、英文の穴埋めを行います。穴埋めは、入力欄をマウスでクリックして、キーボードで英文を入力します。



英文を入力していくと、途中まで正解している場合は、入力欄が黄色になります。入力が間違っている場合は、入力欄は赤になります。入力が完成すると、入力欄は閉じられます(表示はブラウザによって多少異なります)。なお3回以上再生が行われた状態で3回以上入力を間違えると正解が提示されます。



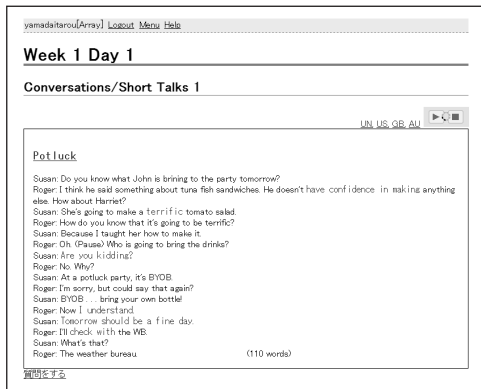
Cloz Test が終了すると、ポイントとなる用法の解説が現れます。青字になっている部分をマウスでクリックすると、各用法の解説が表示されます。



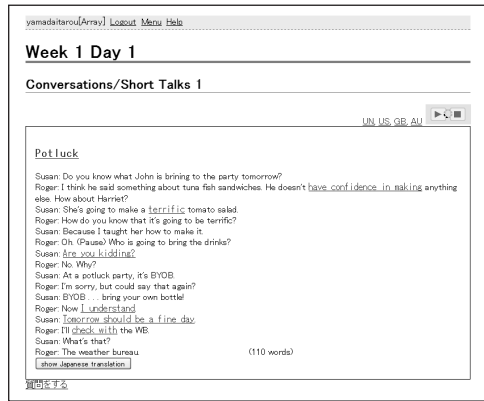
用法をチェックしたら、OK で全文表示に戻ります。



チェック済みの用法には、下線が付きます。



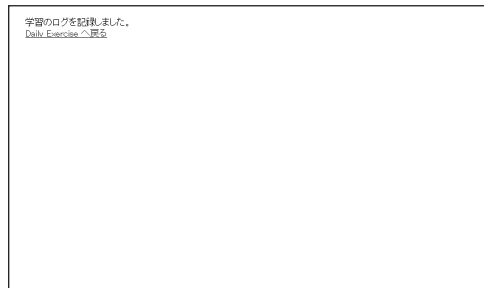
全ての用法をチェックしたら "show Japanese translation" ボタンが現れます。クリックして和訳の確認に進みます。



和訳の確認をします。英文を聞きながら、日本語と英語の違いをチェックしてください。



最後に、学習の結果を記録するために、"finish this work" ボタンをクリックして、学習課題を終了してください。これ以外の方法で、学習課題を抜けると、学習結果が記録されませんので注意してください。学習結果が正常に記録されると以下のような画面が現れます。



学習状況の確認

学習状況は主に、聞き取りの回数と所要時間の一覧として提供されます。複数回、同じ学習課題を行った場合は、初回の記録を表示します。

yamadaitarou(Admin) Logout Menu Help												
Exercise Log												
yamadaitarou												
		w01d01	w01d02	w01d03	w01d04	w01d05	w01d06	合計	累計	w02d01	w02d02	w02
Basic Sentence	再生回数	2/2						2/2	2/2			
BS01	所要時間	00:00:15						00:00:15	00:00:15			
	再生回数	3/3						3/3	3/3			
BS02	所要時間	00:00:27						00:00:27	00:00:27			
	再生回数	2/2						2/2	2/2			
BS03	所要時間	00:00:33						00:00:33	00:00:33			
	再生回数	3/3						3/3	3/3			
BS04	所要時間	00:00:22						00:00:22	00:00:22			
	再生回数	1/1						1/1	1/1			
BS05	所要時間	00:00:10						00:00:10	00:00:10			
	再生回数											
BS06	所要時間											
	再生回数											
BS07	所要時間	00:00:17						00:00:17	00:00:17			
	再生回数	2/2						2/2	2/2			
BS08	所要時間	00:00:14						00:00:14	00:00:14			